

「冬山登山の実像 ―黒部川横断、冬剣、冬薬師、そして海外の山々―」

山本宗彦

明治大学体育会山岳部(前)監督、炉辺会、日本山岳会副会長
日本・ネパール カンチェンジュンガ登山隊(JAC、1984 年)隊員

1 プロフィール

1959 年 12 月 7 日生 現在 60 歳 埼玉県出身 埼玉県さいたま市在住
11 歳の頃から自分で計画して登る登山を始め、高校と大学は山岳部に所属して
訓練を行う。大学卒業後からヒマラヤの高峰に登るようになる。
大学卒業後は体育会山岳部のコーチとなり、2005 年度から 2017 年度まで監督を
務め、2019 年からは日本山岳会副会長になる。

2 挨拶

私は、昆虫採集の目的で山野に入っていたことの延長から、11 歳の時に奥秩
父三峰神社表参道を友人と登って展望台から奥秩父の山々を眺めたことが今に
つながっている様に思います。そして 13 歳の秋に登った秩父御岳山を自分の登
山の第 1 回として記録を取り始め、2019 年最後の山行が 733 回となります。そ
の中で、私にとってはマッシュャーブルム北西壁初登攀も秩父御岳山も同じ 1 回で
あり、同じように価値のある登山です。私にとっての登山は、自然の中に自ら分
け入り、山に登る素朴な行為であり、ひたすら自身の価値観を具現化し続ける信
仰の様な行為であると考えます。自分で考え、自分で決め、自分で実践すること
が登山の基本であり、自分で作ったルールを自分で守りながら登る行為は、自由
ということの究極的な表現の一つであり、一つひとつの登山はあたかも作品の様
なものかもしれません。

私の登山は地を這う様な地味な行為であり、できることを繰り返してきたにす
ぎませんが、既存のルートから外れ、「不安・不快・不便」が際立ち、「生きて
帰るためだけに全力を尽くす」日本の冬山において、自身の理想を具現化するこ
とを求めてきた様に思います。藪山からヒマラヤへ、そして冬の剣岳へ、相前後
しながら自分の登山は変化してきましたが、その根底にあるものは結局同じなの
ではないかと考えます。同じことを繰り返す愚直な行為ですが、その行為を通じ
て決してお金では買うことのできない、そして決して誰からも盗まれることのない
宝物を得ることができた様に感じ、私は山と登山という行為に感謝しています。

3 主な海外登山

- 1982年 中国新疆ウイグル自治区 ボゴダⅡ峰(5362m)初登頂
1983年 旧ソビエト連邦パミール高原
レーニン(7132m) & コミュニズム(7495m) 登頂
1984年 ネパール カンチェンジュンガ(8586m)
南峰 8250m まで、主峰 8300m まで
1985年 パキスタン マッシュャーブルム(7821m)北西壁初登攀
ブロードピーク(8047m)アルパインスタイルで登頂
1987年 パキスタン ラカポシ(7788m) 東峰(7010m)第2登・隊長
1988年 中国 チョモランマ(8848m)東北東稜から登頂
1995年 中国 マカルー東稜下部初登攀・登攀隊長

4 主な国内山行

- 1980年冬 赤谷尾根-赤谷山-池平山-三の窓-**劔岳**-早月尾根
1992年冬 白馬岳-名劔尾根-樺平-小黒部谷-赤ハゲ尾根-北方稜線-**劔岳**-早月尾根(赤ハゲ尾根冬期初登攀)
1997年冬 針ノ木岳西稜-爺ヶ岳
1998年冬 水晶岳・赤牛岳-**黒部川横断**-**薬師岳**-一稜-薬師岳-折立
2000年冬 **劔岳**八ツ峰Ⅳ稜
2002年冬 **劔岳**北方稜線: 鋌ヶ岳-僧ヶ岳-サンビキ山-毛勝山-猫又山-馬場島
2003年冬 遠見尾根-五竜岳-**黒部川横断**-北仙人尾根-池平山-**劔岳**-早月尾根
2005年残雪期 白ハゲ東稜
2007年残雪期 赤ハゲ東稜
2007年冬 白萩尾根 - 白萩山 - 赤谷山 - 赤谷尾根(白萩尾根冬期初登攀)